

X-point

管理者機能マニュアル
～ユーザ固有マスタインポートバッチ実行～

2025/09/01 版



はじめに

◆本書の目的

本書は「ユーザ固有マスタインポートバッチ実行」の設定方法について説明しています。
本書の内容をよくお読み頂いた上で、操作を行なってください。

◆対象とする読者

本書は「X-point」をお使いになるシステム管理者を対象としています。システム管理者とは「X-point」を運用するにあたり必要な設定および基本データの作成、維持管理を行なう本システムの管理権限を持つユーザを指します。

◆対応バージョン（2026/02/01 時点）

X-point
X-point v3.13

◆製品名について

本文中、「X-point サーバ」は「X-point」と表記しています。
また、各製品の名称は対応バージョンを省略してある箇所もありますのでご了承ください。

◆商標について

本書の一部、または全部を著作権所有者の許諾なしに、商用目的の為に複製、配布することはできません。
X-point、エクスポイントの名称およびロゴは株式会社エイトレッドの商標または登録商標です。
Microsoft、MS-DOS、Windows は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。Macintosh、MacOS は Apple Computer, Inc. の米国およびその他の国における登録商標です。Adobe、Acrobat、Adobe Acrobat は Adobe Systems, Inc. の商標または登録商標です。ORACLE、Java、JavaScript は、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。デスクネット、desknet's は株式会社ネオジャパンの登録商標です。サイボウズ、Cybozu はサイボウズ株式会社の登録商標です。

その他、記載された会社名およびロゴ、製品名などは該当する会社の商標または登録商標です。本書では、©、®、(TM) の表示を省略しています。ご了承ください。

◆製作著作

©2025 株式会社エイトレッド

目次／索引

1. 概要	4
2. ユーザ固有マスタインポートバッチ実行の機能概要	4
2. 1 ユーザ固有マスタインポートバッチ実行について	4
2. 2 ユーザ固有マスタインポートバッチ実行のエラー処理	4
2. 2. 1 全てのインポート処理が実行されないパターン	4
2. 2. 2 各マスタでインポート処理が実行されないパターン	4
2. 2. 3 警告が発生するパターン	5
3. ユーザ固有マスタインポートバッチ実行の設定	6
3. 1 設定の流れ	6
3. 2 ユーザ固有マスタインポートバッチ登録	6
3. 3 ユーザ固有マスタインポートデータの準備	9
3. 4 実行／スケジューリング	11
3. 4. 1 手動実行	11
3. 4. 2 スケジュール実行	13
4. ユーザ固有マスタインポートの実行結果確認	14
4. 1 タスクログ	14

1. 概要

本書では、X-point 運用環境において「ユーザ固有マスタインポートバッチ実行」の機能概要と、設定手順について説明します。本機能で、管理者が登録した設定に従い、GSV ファイルを読み込んでユーザ固有マスタへのインポートが行われます。実行はスケジューリングすることができます。

2. ユーザ固有マスタインポートバッチ実行の機能概要

この章では、ユーザ固有マスタインポートバッチ実行の機能概要について説明します。

2. 1 ユーザ固有マスタインポートバッチ実行について

ユーザ固有マスタインポートバッチは、X-point のタスク管理機能により手動実行、及びスケジュール実行できます。ユーザ固有マスタインポートバッチを実行するには、あらかじめ X-point の管理者サイトで設定を行う必要があります。タスク実行の際は、設定された内容でユーザ固有マスタインポートが行われます。設定方法については本書「3. ユーザ固有マスタインポートバッチ実行の設定」を参照してください。

2. 2 ユーザ固有マスタインポートバッチ実行のエラー処理

ユーザ固有マスタのインポート処理中にエラーが発生した場合には、以下の3パターンの何れかの処理が行われます。

2. 2. 1 全てのインポート処理が実行されないパターン

以下の原因等でバッチ実行に失敗した場合には、全てのインポート処理は行われません。

- ・ 採番管理デーモンが起動していない場合
- ・ データベース (XPCUSTOM) への接続に失敗した場合

2. 2. 2 各マスタでインポート処理が実行されないパターン

以下の原因等で各ユーザ固有マスタへのインポートに失敗した場合には、対象のマスタへのインポートは一切行われません。それ以外の、エラーの発生していないマスタへのインポートは実行されます。

- ・ データファイルが存在しない場合
- ・ ファイルが指定した形式で読み込めない場合
- ・ 対象のマスタがデータベースから削除されている場合
- ・ ユーザ固有マスタに登録できないレコードが検出された場合 (※)

※ インポート定義情報の【インポートできないレコードが検出された場合の動作】が“インポートをキャンセル”に設定されている場合に限りです。

2. 2. 3 警告が発生するパターン

以下の原因等でユーザ固有マスタに登録できないレコードが検出された場合、対象のレコードは登録されません。

それ以外の、正常なレコードは登録されます。(※)

- ・ 対象のマスタの必須項目が空のため登録に失敗した場合
- ・ 対象のマスタのユニークキー項目が重複した場合
- ・ その他、対象のマスタに登録できないレコードの場合

※ インポート定義情報の【インポートできないレコードが検出された場合の動作】が“インポートを継続”に設定されている場合に限りです。

3. ユーザ固有マスタインポートバッチ実行の設定

この章では、ユーザ固有マスタインポートバッチ実行の設定方法について説明します。

3. 1 設定の流れ

- ① バッチ設定 ユーザ固有マスタインポートバッチ登録画面で、各マスタへの処理内容を設定。
- ② インポートデータ準備 ユーザ固有マスタインポート用の GSV ファイルをアップロードします。
- ③ 実行/スケジューリング タスク管理機能にて、手動実行または実行スケジューリングを行います。

3. 2 ユーザ固有マスタインポートバッチ登録

3. 2. 1 インポート定義の登録

ユーザ固有マスタインポートバッチ実行を行うには、対象のユーザ固有マスタに対して1つ以上の「インポート定義」が登録されている必要があります。

管理者サイトで「マスタ管理」→「マスター一覧」→「(対象マスタの) インポート」と遷移して、インポート処理のウィザードに従って設定を行い、確認画面で「定義内容を保存」ボタンをクリックして保存します。

インポート定義の詳細につきましては、管理者機能マニュアルの「マスタ管理」の章を参照下さい。

3. 2. 2 一覧画面

ユーザ固有マスタインポートバッチ登録の設定一覧画面へは、管理者サイトで「マスタ管理」→「ユーザ固有マスタ」→「インポートバッチ登録」をクリックして遷移します。

atled
スーパーユーザ

ユーザーサイトへ 管理者マニュアル ログアウト

マスタ管理 → マスター一覧 → 簡易マスタ作成 → **ユーザ固有マスタ** → タスクログ

ユーザ固有マスタインポート バッチ登録一覧 + 作成 取込 **インポートバッチ登録**

マスタ名をクリックし、ユーザ固有マスタのインポートバッチ登録を行うことができます。

No	マスタ名 (X-point上の識別名)	インポート定義	バッチ実行	備考
1	user_master		実行しない	

マスタ名、インポート定義、バッチ実行、備考が表示されます。マスタ名のリンクから、インポートバッチ登録画面へ遷移します。

3. 2. 3 インポートバッチ登録画面

一覧画面からインポートバッチ登録画面へ遷移し、設定を行います。

マスタ管理 → マスタ一覧 → 簡易マスタ作成 → ユーザ固有マスタ → タスクログ

ユーザ固有マスタインポート バッチ登録 + 作成 出 取込 インポートバッチ登録

ユーザ固有マスタの自動取り込みの設定を行います。

基本情報	
インポートのバッチ実行	<input type="radio"/> 実行する <input checked="" type="radio"/> 実行しない
マスタ名	user_master
使用するインポート定義	-- インポート定義 --
インポートするデータファイル	ファイル名 <input type="text"/> (masterdata.csv 等)
実行後のデータファイルの処理	成功時 <input checked="" type="radio"/> 何もしない <input type="radio"/> 削除する <input type="radio"/> ファイル名を変更する ※ファイル名の末尾に実行日時を付け加えます。
	失敗時 <input checked="" type="radio"/> 何もしない <input type="radio"/> 削除する <input type="radio"/> ファイル名を変更する ※ファイル名の末尾に実行日時を付け加えます。 ※1件以上の取り込み失敗があった場合も「失敗」とします。
備考	<div style="border: 1px solid gray; height: 40px;"></div>

【インポートのバッチ実行】

実行ファイルが実行された際に、このマスタへのインポートを実行するかを選択します。

【マスタ名】

ユーザ固有マスタ名が表示されます。

【使用するインポート定義】

使用するインポート定義をコンボボックスより選択します。(必須)

あらかじめ、1つ以上のインポート定義が登録されている必要があります。

インポート定義はユーザ固有マスタインポートにて登録することができます。

【インポートするデータファイル】

インポートするデータファイル名を入力します。(必須)

【実行後のデータファイルの処理】

インポートを実行した後の、取込対象ファイルの処理を選択します。

- ※ 初期値は「何もしない」が選択されています。
- ※ ファイル名を変更する場合、「masterdata.csv」が「masterdata.csv.YYYYMMDDHHmmss」のように変更されます。
(YYYYMMDDHHmmss 部分には実行年月日時分秒が入ります)

【備考】

任意の情報を入力します。(半角 500 文字以内)

！ 注意事項

- ・ファイル名には、.exe、.bin 等の実行ファイルは指定できません。
- ・CSVファイル名に全角文字を使用した場合は正常に動作しない場合がありますので、ファイル名には半角英数字のみを使用することを推奨します。

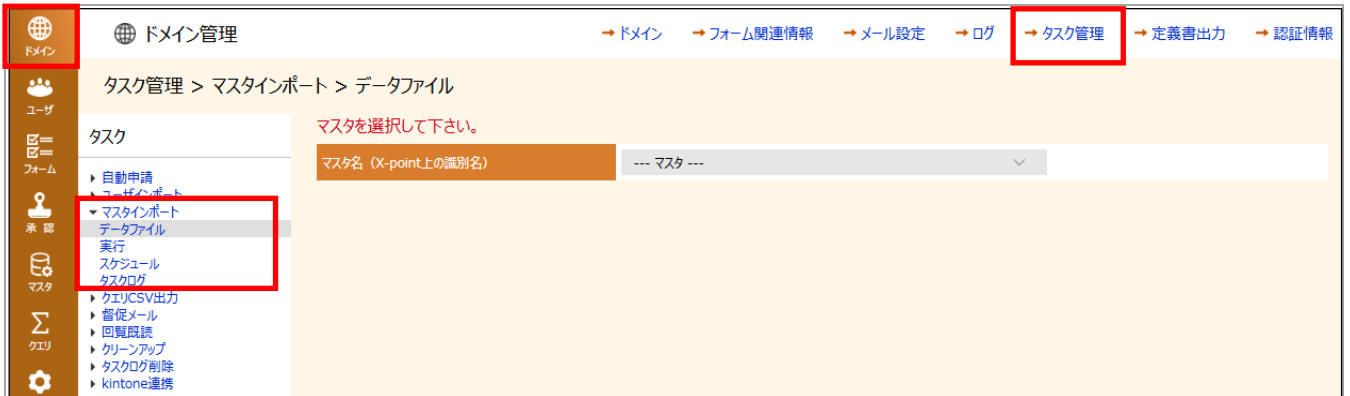
3. 3 ユーザ固有マスタインポートデータの準備

ここでは、実際のインポートデータとなる CSV ファイルをアップロードします。

前節で設定した CSV ファイル名、及び CSV フォーマットに合致するファイルを用意して作業を始めます。

- ① 「ドメイン管理」→「タスク管理」をクリックし、画面左に表示されるタスクメニューから「マスタインポート」→「データファイル」画面を表示します。

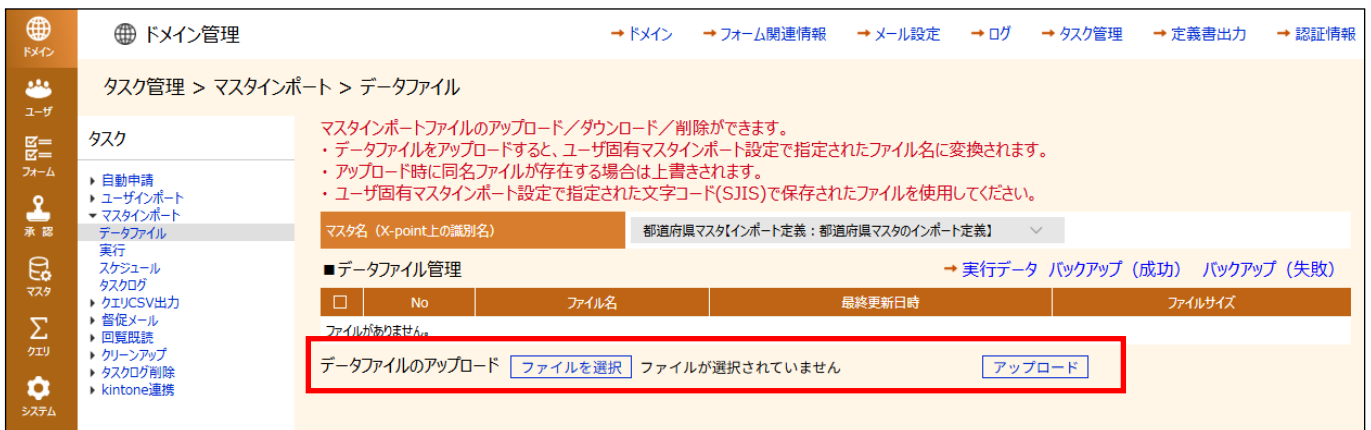
▼タスク管理：マスタインポート管理画面トップ



- ② インポート定義済みのマスタを選択します。

【マスタ名 (X-point 上の識別名)】メニューに表示される設定済みのユーザ固有マスタインポートバッチ設定から目的の設定を選択すると、画面が更新されアップロードが可能になります。画面下の【ファイルを選択】ボタンより、CSV ファイルを選択し、【アップロード】ボタンによりアップロードを実行します。

▼タスク管理：マスタインポートデータアップロード画面



！注意事項

- ・アップロードしたファイルは、「3.2 ユーザ固有マスタインポートバッチ登録」で設定した CSV ファイル名にリネームされます。すでにファイルが存在する場合は上書アップロードになります。
- ・アップロードするファイルは、「3.3 ユーザ固有マスタインポートデータの準備」で設定した文字コードで保存されたファイルを使用してください。

▼画面解説

マスタ名 (X-point上の識別名) 都道府県マスタ【インポート定義：都道府県マスタのインポート定義】

■データファイル管理 → [実行データ](#) [バックアップ \(成功\)](#) [バックアップ \(失敗\)](#)

<input type="checkbox"/>	No	ファイル名	最終更新日時	ファイルサイズ
ファイルがありません。				

データファイルのアップロード [ファイルを選択](#) ファイルが選択されていません [アップロード](#)

- データファイル管理 アップロードした CSV データを一覧表示します。ユーザ固有マスタインポートバッチの設定で成功時又は失敗時に「ファイル名を変更する」を選択した場合は、以下のファイル区分ごとに表示が行われます。区分の選択はリンクとして一覧の右肩に表示されます。

※ ユーザ固有マスタインポートバッチ設定で成功時及び失敗時に「何もしない」か「削除する」が選択されている場合、【実行データ】に該当するデータのみが表示され、これらの区分リンクは画面に現れません。

バックアップ (失敗)	失敗ファイルのみを表示するリンクです。
バックアップ (成功)	成功ファイルのみを表示するリンクです。
実行データ	未実行データ及び、実行後リネームされていない CSV データを表示します。インポート処理の対象となるデータです。

ファイル名のリンクをクリックするとダウンロードが開始されます。

！注意事項

ファイルは種類別に最大25件迄保存できます。25件を超えた場合、毎日23:00に最終更新日時の古いものから順に削除されます

- 【削除する】ボタン 一覧で表示されるファイルを消去したい場合は、左のチェックボックスを選択した後【削除する】をクリックします。

3. 4 実行／スケジュールリング

次は、アップロードした CSV データを既に設定したユーザ固有マスタインポートバッチに基づき、
いよいよ実際にインポート実行するステップです。実行方法には、手動実行とスケジュール実行があります。

ユーザ固有マスタインポートの実行は、**現在ログインしているドメインに対して実行されます。**

従来は、現在表示しているドメインに関わらず全てのドメイン上でのユーザ固有マスタインポートが実行されるようになっておりましたが、「X-point v3.1.00」よりドメイン毎に実行できるように仕様変更されております。ご注意ください。

！注意事項

- ・「X-point v3.1.00」**適用前**に設定していたスケジュールはそのまま全てのドメインに対して実行されます。
 - ・「X-point v3.1.00」**適用後**に再設定した段階で、設定したドメインに対してのみ実行されるようになります。
- ※現在の X-point のバージョンは「管理者サイト>ドメイン管理>ドメイン基本設定」にてご確認可能です。

3.4.1 手動実行

「ドメイン管理」→「タスク管理」をクリックし、画面左に表示されるタスクメニューから「マスタインポート」→「実行」画面を表示します。

▼手動実行画面

The screenshot shows the X-point administrator interface. At the top, the user is logged in as 'atled 管理者'. The breadcrumb navigation is 'ドメイン管理 > マスタインポート > 実行'. The left sidebar has a 'タスク' (Task) menu with 'マスタインポート' > '実行' highlighted. The main content area contains instructions for executing the task, including a '開始' (Start) button. Red boxes highlight the 'ドメイン' icon in the top navigation, the 'タスク管理' link in the breadcrumb, the '実行' option in the task menu, and the '開始' button.

atled 管理者

ユーザーサイトへ 管理者マニュアル ログアウト

ドメイン管理 → ドメイン → フォーム関連情報 → メール設定 → ログ → **タスク管理** → 定義書出力

タスク管理 > マスタインポート > 実行

タスク

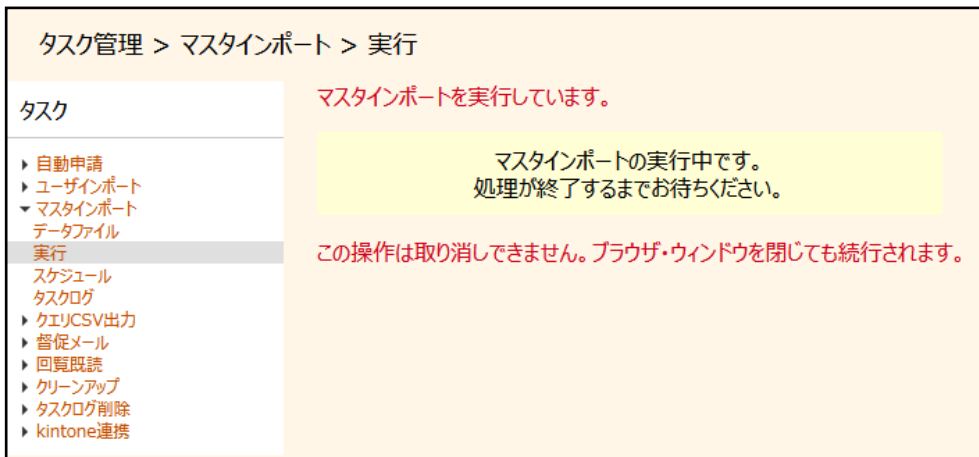
マスタインポートを実行します。

- ・ドメインで「実行する」に設定された → ユーザ固有マスタインポートバッチ 設定に基づいてすべてのユーザ固有マスタインポートを実行します。
- ・「開始」ボタンを押下すると所属するドメインのユーザ固有マスタインポートタスクが実行されます。
- ・実行データについては、→ データファイルページにて確認してください。

開始

【開始】 ボタンにより直ちにユーザインポートが実行されます。

▼手動実行中



タスク管理 > マスタインポート > 実行

タスク

- ▶ 自動申請
- ▶ ユーザインポート
- ▼ マスタインポート
- データファイル
- 実行
- スケジュール
- タスクログ
- ▶ ケエリCSV出力
- ▶ 督促メール
- ▶ 回覧既読
- ▶ クリーンアップ
- ▶ タスクログ削除
- ▶ kintone連携

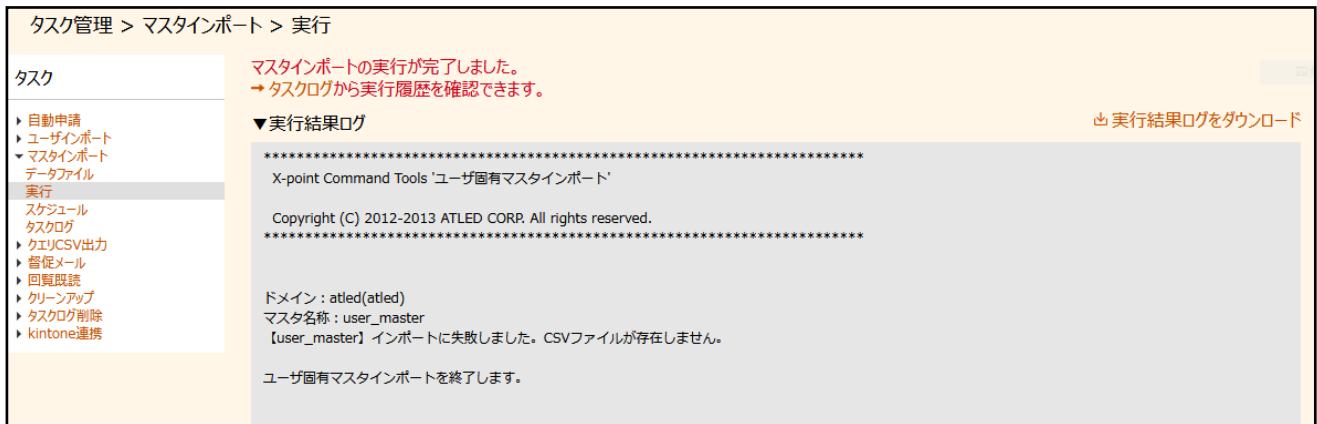
マスタインポートを実行しています。

マスタインポートの実行中です。
処理が終了するまでお待ちください。

この操作は取り消しできません。ブラウザ・ウィンドウを閉じても続行されます。

ユーザインポートが完了すると画面は自動的に実行結果ログを表示して終了します。

▼手動実行完了画面



タスク管理 > マスタインポート > 実行

タスク

- ▶ 自動申請
- ▶ ユーザインポート
- ▼ マスタインポート
- データファイル
- 実行
- スケジュール
- タスクログ
- ▶ ケエリCSV出力
- ▶ 督促メール
- ▶ 回覧既読
- ▶ クリーンアップ
- ▶ タスクログ削除
- ▶ kintone連携

マスタインポートの実行が完了しました。
→ タスクログから実行履歴を確認できます。

⇨ 実行結果ログをダウンロード

▼実行結果ログ

X-point Command Tools 'ユーザ固有マスタインポート'

Copyright (C) 2012-2013 ATLED CORP. All rights reserved.

ドメイン : atled(atled)
マスタ名称 : user_master
[user_master] インポートに失敗しました。CSVファイルが存在しません。

ユーザ固有マスタインポートを終了します。

3.4.2 スケジュール実行

負荷の掛かる時間帯を避け、利用の少ない休日や深夜にユーザ固有マスタインポートを実行したい場合はスケジュール機能を利用することができます。

「ドメイン管理」→「タスク管理」をクリックし、画面左に表示されるタスクメニューから「マスタインポート」→「スケジュール」画面を表示します。

▼スケジュール設定画面



開始時間を設定し、【保存】ボタンにより設定を適用します。

実行種別	設定の意味
なし	スケジュールを解除します
毎時	一時間に一回、選択した「分」に実行します
毎日	一日に一回、選択した「時」「分」に実行します
毎週	一週間に一回、選択した「曜日」「時」「分」に実行します
毎月	一月に一回、選択した「日」「時」「分」に実行します

※「分」は5分単位で設定可能です。また、毎月の設定で当月に存在しない日（例えば毎月31日を指定した場合の2月など）はタスクが実行されませんので注意が必要です。毎月実行したい場合は毎月1日を指定してください。

4. ユーザ固有マスタインポートの実行結果確認

この章では、ユーザ固有マスタインポートの実行結果の確認方法を説明します。

4. 1 タスクログ

自動申請の実行確認を行うには、タスクログ機能によって行います。

タスクログは「ドメイン管理」→「タスク管理」をクリックし、画面左に表示されるタスクメニューから「マスタインポート」→「タスクログ」画面を表示します。

▼マスタインポートタスクログ画面

The screenshot shows the 'X-point' user management interface. The breadcrumb trail is 'ドメイン管理 > マスタインポート > タスクログ'. The left sidebar contains a 'タスク' (Task) menu with 'マスタインポート' selected. The main content area is titled 'マスタインポートタスクログ' and includes search filters for '実行日' (Execution Date) and '実行結果' (Execution Result). The search results table is as follows:

処理日	実行結果	メッセージ
2020/10/02 09:15:05	失敗	[user_master]インポートに失敗しました。
2020/10/02 09:01:58	成功	[user_master]インポートに成功しました。

① 検索条件

検索を行うには次の検索条件を指定して【検索】をクリックします。

【実行日】

タスクが実行された日を日付範囲で指定します。初期表示時は操作日が設定されます。

【実行結果】

タスク実行結果が「成功」「失敗」「警告」を、それぞれ表示対象にするか否かをチェックボックスで指定します。

初期表示時のチェックボックス状態は 成功 失敗 警告 と設定されます。

【表示件数】

検索結果一覧の1頁に何件表示するかをプルダウンメニューから選択して指定します。

初期表示時は30件が設定されます。

② 検索結果

一覧には検索条件に合致したユーザ固有マスタインポート実行結果が表示されます。尚、別のドメインで実行されているインポート結果は表示されません。

処理日	実行結果	メッセージ
2023/08/29 16:01:19	失敗	【testmaster01】インポートに失敗しました。
2023/08/20 11:46:24	成功	【testmaster02】インポートに成功しました。
2023/08/20 11:46:24	成功	【testmaster02】インポートに成功しました。

③ 詳細メッセージの表示

「タスクログ検索画面」の検索結果一覧から、メッセージのリンクをクリックするとメッセージの詳細が表示されます。

処理日	実行結果	メッセージ
2023/08/29 16:01:19	失敗	【testmaster01】インポートに失敗しました。
2023/08/20 11:46:24	成功	【testmaster02】インポートに成功しました。
2023/08/20 11:46:24	成功	【testmaster02】インポートに成功しました。



明細番号	実行結果	詳細メッセージ
2	エラー	データが不正です。"id001","name_001","skl01","skl02","00" 5番目の項目の値の桁数(2)がテーブル定義の桁数(1)を超えています

【表示件数】

検索結果一覧の1頁に何件表示するかをプルダウンメニューから選択して指定します。

初期表示時は100件が設定されます。

■改訂履歴

改版	改版内容
2021年4月1日版	初版リリース
2021年11月10日版	「3.4 実行/スケジューリング 注意事項」 実行範囲を『全ドメイン』から『実行したドメインのみ』に変更
2023年8月29日版	「4.1 タスクログ」 タスクログ画面キャプチャ差し替え、詳細画面の説明追加
2024年8月21日版	「3.3 ユーザ固有マスタインポートデータの準備」データファイル管理は種類別に最大25ファイル迄であることを記載
2025年9月1日版	「3.3 ユーザ固有マスタインポートデータの準備」 画面イメージの差し替え、画面解説欄と注意事項欄に文字コードの説明文を追加